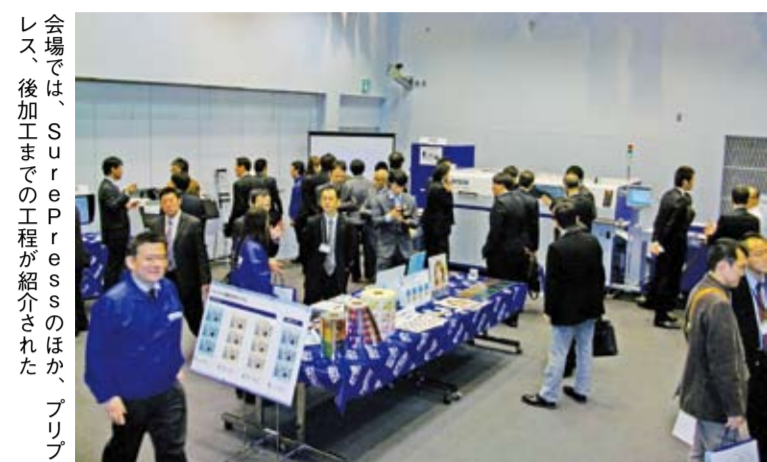


エプソン販売

SurePress内覧会 2日間で約220人が参加

エプソン販売(株) (東京都新宿区西新宿、☎03・5321・9882) は1月27日、28日の2日間、ベルサール西新宿で「SurePress L-4033A 特別内覧会」を開催。実演会とセミナーに延べ約220人の業界人が来場し、同社のデジタル印刷機の可能性について模索、商談などが展開されると同時に、セミナーではラベル製造におけるデジタル印刷について、現状や展望などを学んだ。



会場では、SurePressをメインに、プリプレスから後加工まで一連のラベル製造ワークフローを、実機によるデモンストレーションによって紹介。来場者は、実際にラベルが製造される全工程をみることで、デジタル印刷の現場について知識を深めていた。

SurePressでは、小型の顔入りラベルなどを印刷。デジタルならではの低コスト・高生産性が実現できる仕事の実例として、アピールされ、印刷機の機構やラベルの品質、生産性などについて詳しく質問する来場者が多く見られた。



また、会場には、さまざまなサンプルが掲示され、アナログ機とデジタル機のそれぞれが持つ特長を紹介。例えば、凸版間欠機、間欠オフセット機、フレキソ機などアナログ機で印刷されたラベルと SurePress で印刷したラベルなどを基別に一覧化したパネルでは、グラデーションの再現性でデジタル印刷に優位性があることなどをアピール。製版時にかかるさまざまな処理や、難しい表現では顧客にデザイン変更をお願いすることもなくなるなどのメリットを訴求した。



会場の中央では、各種基材に印刷したラベルサンプルが多数展示されたことで、来場者は、デジタル印刷機でやってみたい仕事を模索すると同時に、実際に印刷した場合の表現力や品質、再現性などについても厳しい目で判断し、説明員に具体的な仕事内容に関する質問などを投げかける姿が多く見受けられた。

デジタル印刷機活用セミナー「エプソン」

「2年後のデジタルマップ」

ラベル新聞社 ゼネラルマネージャー 鈴木由紀子

1月27日、28日の2日間にわたって開催された「インクジェットラベル印刷機 SurePress 内覧会」(エプソン販売主催)では、日本のラベル業界におけるデジタル印刷の現状や将来展望などを明らかにする「デジタル印刷機活用セミナー」が開催された。同セミナーは、2日間で4講演が展開され、最初にラベル新聞社が、ラベル業界におけるデジタル印刷の歴史と展望などをまとめ

た基調講演を行った。続いて、すでにデジタル印刷に取り組んでいるラベル印刷会社3社が、それぞれの視点で見たデジタル印刷の課題や展開などをテーマに講演した。今回から連載で、各講演の主な内容を掲載していく。第1回は、基調講演の「2年後のデジタルマップ」(ラベル新聞社)の内容を紹介する。

■ラベル業界におけるデジタル印刷の変遷

日本のラベル業界にデジタル印刷技術が登場してから今年で16年目。すでに15年が経過したわけだが、その間、当業界ではどのように、導入が進んできたのか。

ラベル新聞では95年から97年の新年号で、デジタル技術や印刷について特集。マッキントッシュによるDTPに始まり、電子写真方式のラベル向けデジタル印刷機の登場、インターネットの普及と、目まぐるしい勢いでラベル業界にデジタル化の波が押し寄せてきたことを伝えている。

しかし、この15年間で日本のラベル業界にデジタル印刷が浸透したかという、そうではない。特に、デジタル印刷機という生産機のカテゴリーでは、世界市場と比較して設備導入率は低い傾向にある。

その歴史をみてみる。まず95年に、インディゴからラベル向けのデジタル印刷機(電子写真方式)として「オムニマス」が登場。「IGAS95」で、シート対応の「E-print」と共に発表され、アナログ印刷機以上の価格ではあったが、早くもラベル印刷会社に1号機が

インクジェットプリンタ(IJP)と抜き加工機の一体型やセットシステムなども活発化するなど、07年までに「電子写真・インクジェット方式のデジタル印刷機」[IJ]「オンデマンドラベル製作システム」[I]「ユニット(アナログ機にIJユニットを搭載させて可変情報を追い刷りするタイプ)」が出そろい、ラベル製造におけるデジタル印刷の幅が広がった。その動きはますます活発化し、10年に当社が主催した「ラベルフォーラムジャパン2010」では、IJ方式のデジタル印刷機を核に、さまざまなデジタル機が登場。これまでに、国内のラベル市場においては、高価格帯のデジタル印刷機は動きが鈍い状況であったが、IJ方式のデジタル印刷機のラインアップ拡充による技術競争などで、今後2年間は、これまでとは異なる急激な伸長率で、導入企業が増加していくことが予測される。

■ラベル製造でデジタル印刷部門を確立するには

95年から2000年までに、デジタル印刷機を導入した企業は、機器も発展途上にあっただけで、大変な苦勞を強いられた。その後、メーカーサイドでの企業買収や事業譲渡などを経て、印刷

機導入企業が増加する年と推定しており、2年後以降にデジタル印刷をスタートさせた場合、新規の営業展開で売上げ拡大を狙うには、遅きに失している可能性がある。「世界のラベル印刷数量の推移」(PIRA調べ)では、08年にはデジタル印刷による印刷数量が4%であったものが、11年には15%に、さらに13年には27%と08年の6倍以上になるという調査結果が出ている。これは、IJ方式のデジタル印刷機メーカーが倍々の形で増えていることが背景にある。もはや世界市場では、電子写真方式は成熟期に、IJ方式も飛躍的なメーカー数増加で、技術が短期間で向上していく、とされている。

日本市場では、「デジタル印刷は必ず必要になると思うが、今はまだ導入できない」「導入しても新たな展開が難しい」という話をよく聞く。また、2000万円台から8000万円台までが主な価格帯となるデジタル印刷機(電子写真・IJ)については、「まだまだ爆発的な導入には至らないし、設備できる企業も限られている」という声が多いのも確かだ。

だが、果たして、永遠に日本市場でのデジタル印刷機導入台数は微増のまま進むのだろうか。

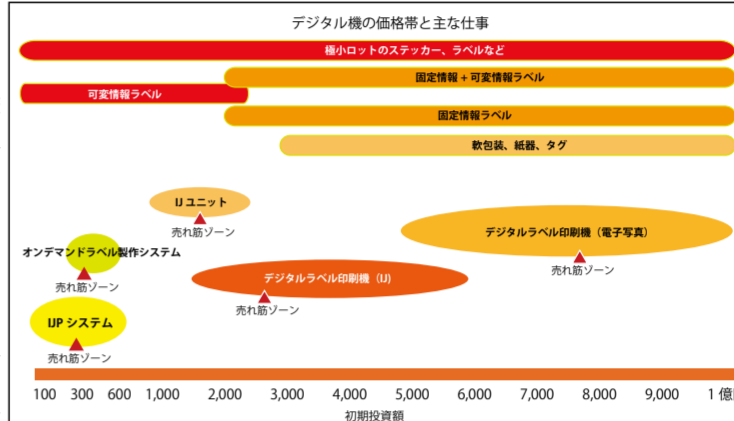
顧客ニーズは変化の一途をたどっており、印刷会社はそれらニーズを把握し、対応していくことが発展の鍵となってきた。また、ラベル印刷会社の社内環境も、高い技術を維持し続けるのは難しい状況となっている。それらを重ね合わせていくと、企業を現状維持でなく発展させていくためには、アナログ印刷に加えデジタル印刷という柱も加えていかなければならないのが現状だ。

では、具体的にどのような活動をしていけばいいのか。

まずは、デジタル印刷機導入前、導入後の双方で、同機長の所や短所、出



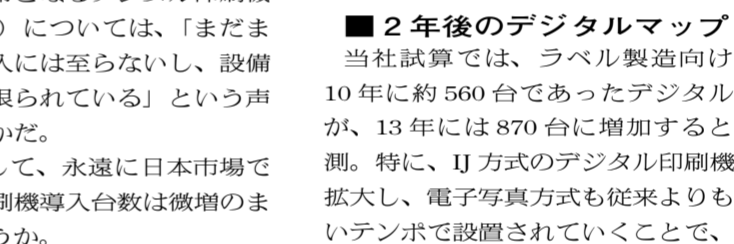
各セミナーには、定員を超える約60人が参加した



来ること、出来ないことを徹底的に自社で解明することが必要となる。導入後は、とにかく機械を動かすことが重要だ。また、自社の特長を生かしたデジタル印刷のビジネスモデルを構築し、確立する必要もある。中小企業が多い日本のラベル市場では、同機種を持つ企業とのネットワーク構築も重要であり、また、今後は可変データを十分に整理し、同一フォーマットで他品

種ラベルを展開していくSKU(単品商品管理)ビジネスで得られる成功も多いだろう。印刷機を導入したのち、印刷はすぐにできて効果的な運用を確立するには相応の時間がかかるということも頭に置かなくてはならない。

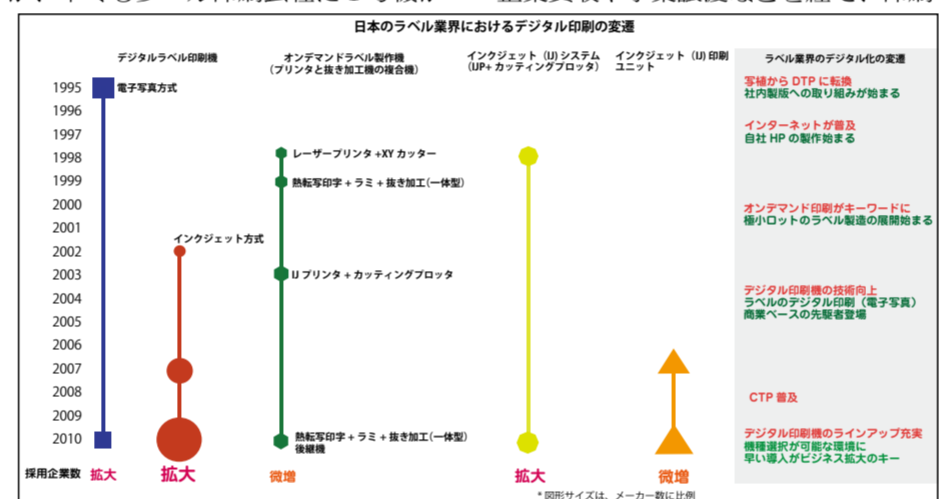
■2年後のデジタルマップ
当社試算では、ラベル製造向けに10年に約560台であったデジタル機が、13年には870台に増加すると予測。特に、IJ方式のデジタル印刷機が拡大し、電子写真方式も従来よりも早いテンポで設置されていくことで、デジタル機の構成比ではデジタル印刷機が9%に拡大。アナログ機を含めた印刷機全体で、ついにデジタル印刷機が1%台にのると推定している。



また、ラベル印刷会社の社内環境も、高い技術を維持し続けるのは難しい状況となっている。それらを重ね合わせていくと、企業を現状維持でなく発展させていくためには、アナログ印刷に加えデジタル印刷という柱も加えていかなければならないのが現状だ。

では、具体的にどのような活動をしていけばいいのか。

まずは、デジタル印刷機導入前、導入後の双方で、同機長の所や短所、出



導入。98年までに、ラベル印刷会社4社に設置された。続いて98年には、簡単・低コストで極小ロットのラベルが製造できるデジタル機として、プリンタと抜き加工機をセットにした「オンデマンドラベル製作システム」が300万円台で登場。このカテゴリーは、その後も各社から新機種が登場し、組合の勉強会も積極的に開催されたことから、広くラベル業界に導入が進んだ。02年には、エプソンからインクジェット方式のデジタル印刷機が世界市場に先駆けて発表。さらに03年からはイ

技術も向上。現在ほどまでには至っていなかったが、04年までにデジタル印刷機を導入したリーディング企業は、印刷機のハード・ソフトに関する技術的問題と格闘しながらも、顧客がラベル印刷会社の新たな提案に耳を傾けてくれるという営業しやすい環境を味方に付け社内を活性化。同時に、新たな部門での売上げを得られる展開となった。

デジタル印刷に立ち向かう時期としては、11年はまだ間に合うとしても、2年後はどうか。今年は、デジタ

デジタル印刷が、変わる。 エプソンが、変える。 ラベル印刷機新時代が、ここから始まる。



EPSON EXCEED YOUR VISION

小ロットラベル印刷のニーズに、「SurePress」が、短納期と経済性でお応えします。
これまでアナログ印刷機では対応が難しかった小ロットラベル印刷のニーズに、エプソンからの回答です。デジタルならではの効率的なワークフローと高速度多面付、そしてデジタル印刷機の常識を一新する低インク・ランニングコストで、短納期と経済性を両立。ラベル印刷新時代を告げるデジタル印刷機「シュアプレス」。デジタルラベル印刷の世界に、いよいよ、デビュー。

Inkjet Digital Label Press SurePress L-4033A